

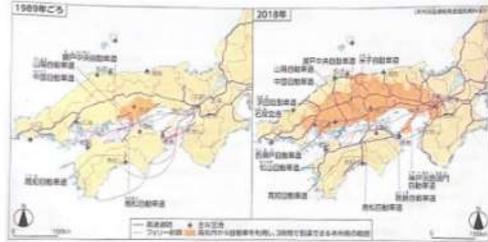
学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南九州市立穎娃中学校	児童生徒数	264人
-----	------------	-------	------

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

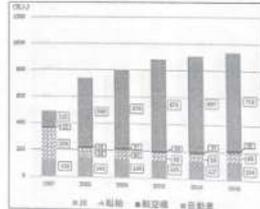
1 地図1中Dの地域について、地図1は、中国・四国地方の交通網の変化や高松市から自動車を利用し、3時間で到達できる本州側の範囲の変化を示したものである。本州四国連絡橋が開通したことによって、香川県に来る観光客の動きにどのような変化があったのか、地図1、資料1、資料2から読み取れることを下の文に続くように説明せよ。

(地図1)



(資料1)本州四国連絡橋の各ルートと開通年(資料2)香川県の交通機関別県外観光客数の推移

本州四国連絡橋のルート	開通年
児島-坂出ルート (瀬戸大橋自動車道)	1988年
神戸-高松ルート (神戸高松鳴門自動車道)	1995年
高松-高松ルート (高松自動車道)	1999年



昔は船で香川に行く手段がなかったけど時間がかかって行人が5000人くらいしかいなかったけど1988年から1999年あった本州四国連絡橋ができて自動車で短い時間でいけるようになったので船を乗る人が減って行く人が増えた

・1987年は自動車をつかう人が少なかったけど、本州四国連絡橋のルートが開通してから、自動車をつかう人が年々増えていく。

空港がよってみればこうきで飛行機がよって来た

- 授業の振り返りとして鹿児島県のWEB問題を活用している。この問題には、授業で使用した一枚の資料に加えて、補足資料が2つ足された問題が出題されている。
- 授業内で解く時間が確保できなかった場合には、次回までの課題にしている。

(一番上・真ん中の解答)

授業で学習した資料を適切に読み取ることができ、補足資料の具体的な数値や年代まで書いた丁寧な回答ができています。

(一番下の解答)

問いに対して、適切な回答はできていないが、授業で扱った資料から、読み取れることは書くことができています。

取組についての概要 (成果)

9月29日(金) 第2年生 社会科

「中国・四国地方の交通網の発達と人口の変化」における実践

本時の振り返りは鹿児島県のWEB問題を活用して行いました。WEB問題には、授業内で使用した資料に加えて、2枚の補足資料が付いた問いが出題されています。本時の内容を振り返るとともに、他資料との関連を導き出す問いに適していると考えました。

多くの生徒が本時で学んだことを振り返りながら、解答ができていくことが分かりました。一方で、苦手な生徒の中には学んだことは書いているものの、問いに対して適切に解答できていない生徒もいました。そのような生徒に関しては、まずは自分の考えを書いたことを称賛し、その上で適当な解答への手立てを共に考えていく必要があると考えます。そうすることで、文章で答える問題に対する苦手意識も徐々に克服されていくと期待しています。

振り返りを行うことで、生徒の知識の定着を図れるとともに、自身の授業の改善のポイントも見直すことができたので、今後も続けていければと考えています。